

中長期目標 (学校ビジョン)		○社会の中で自立して生活ができる力の育成 ○職業生活に必要な意欲と能力の育成 ○豊かな人間性、たくましく生きるための心と体の育成		今年度の 重点目標	職業的自立と主体的な社会参加に向けた確かな力の育成 琴の浦教育検証プロジェクトに基づいたカリキュラムマネジメント 地域との協働による魅力的な学校づくり		
年 度 当 初					評 価 結 果 (1)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
社会人・職業人としての基礎的な力の育成	○基本的生活習慣の確立	○返事、言葉遣い等の基本的生活習慣が習慣化されていない生徒が少なくない。 ○「学習規律」や「生徒心得」の学校ルールが十分に徹底されていない。 ○自分の気持ちをコントロールする方法がわからず、正しい意思表示ができていない生徒がいる。	○自分の気持ちをコントロールしながら、学校や社会のルールを守って生活できる。 ○生徒自らが規律を守ろうという意識をもって、落ち着いて、意欲的に生活することができる。	○「生徒心得」「学習ルール」等のルールを守る重要性や意義を理解させるため、LHRや朝の会、帰りの会を活用して随時指導する。 ○自分の気持ちのコントロールの仕方、正しい意思表示の仕方を一人一人の実態に応じて指導し、教職員で共通理解を図る。 ○一人一人の意見を大切にし、様々な悩みや不安を互いに支える仲間づくり（学級づくり）に努める。	○時間を守る、正しい服装をする、携帯電話を正しく使用する等の規律を守ろうと意識し、落ち着いて生活することができていた。ルールを守れない際は、自分の課題を見つめさせ、今後どうすればよいのか具体的な目標、そのための方法を考えさせたり、規律を守る意味を考えさせたりしたことで、改善していく生徒が多かった。	B	○挨拶、返事、時間を守る、任された仕事を責任をもって行う等の基本的生活習慣、集団規律を習慣化できるよう、個に応じた一貫性のある指導を継続して行う。その中で自己肯定感、自己耐用感も育てていく。 ○職業自立の学習や日々の生活の中で、自分の良さや課題を見つめさせたり、その課題をどう克服するのかを考えさせる時間を意図的に設定する。
		○新型コロナウイルス感染防止のため、全生徒がマスクを着用している。しかし、正しく着用できなかったり、手洗いが不十分だったりしている。	○正しく手洗いやマスク着用をしたりして、健康や衛生に留意しながら生活することができる。	○なぜ、マスクをつけなければいけないのか、手洗いをしなければいけないのかLHRや朝の会、帰りの会を活用して随時指導する。 ○新型コロナウイルスやインフルエンザ等、社会で起きているタイムリーな正しい情報や知識を具体的にわかりやすく説明する。	○前期同様、アンケートでは9割の生徒が「正しくマスクをつけたり手洗いをしたりしている」と答えている。実際に、マスク着用、手洗いが習慣化してきている。 ○給食時間においても、感染予防のために、配膳に配慮したり静かにしゃべらず食べたりできている。	A	○来年度も、今年度同様、新型コロナウイルスのタイムリーな正しい情報や知識を具体的にわかりやすく説明する。 ○なぜ、マスクをつけなければいけないのか、手洗いをしなければいけないのかを、LHRや朝の会、帰りの会を活用して随時指導する。
		○多くの生徒がSNSを利用しているが、長時間使用したり、トラブルの要因となったりすることがある。 ○使い方の習得が不十分な面がある。	○携帯電話等の使い方について個々のルールを守ることができる。	○「我が家のルール」や「決意表明」等、個々に設定したルールの確認や見直しを計画的に行う。 ○情報化推進担当と連携を図る。 ○個人懇談等を通して家庭と情報共有を行う。	○年度初と年末年始の二回、生徒・保護者で「我が家のルール」の作成や見直し・確認を行ったが、個々のルールへの意識が十分でない。 ○外部講師等より情報モラルに関する資料提供等を受けて指導にあたった。	B	○汎化しやすくするため、より具体的な事例や資料を活用した学習や指導を行う。 ○継続した保護者への情報提供を行う。
		○専門共通目標を理解する生徒は増えたが、常に意識できている生徒は多くない。	○共通目標に挙げている社会人としての基本を、専門の授業の中では常に意識する姿が見える。	○常に意識できるよう、専門共通目標振り返りシートや実習日誌での自己評価・他者評価を繰り返す。 ○専門共通目標は、スローガンの短い言葉にまとめる。 ○「～月間」というように定期的に1つのことを意識する期間を設け、徹底する。	○専門オリエンテーションや現場実習の決意表明・報告会で共通目標の意図について話をするすることで、意識づけを行った。 ○定期的に目標の意図について確認したり、毎時間の振り返りをしたりすることで、生徒の意識は高まっている。	B	○今後も、継続して共通目標を意識して活動できるよう、環境づくりの継続と繰り返しの指導をしていく。
		○職員に対して自分から積極的に挨拶をする舎生は少なく、職員からの挨拶に「おはようございます」「帰りました」など、きちんと返答のできる舎生は5割程度である。	○自ら積極的に挨拶ができる舎生と職員からの挨拶にきちんと返すことができる舎生が8割程度いる。	○マイスター制度を活用して振り返りを行い、挨拶の習慣化を図る。 ○挨拶強化週間を設定し、能動的な挨拶の定着を図る。	○自己評価と他者評価の差がある舎生もいるが、面談での評価や振り返りを繰り返すことで一人一人の挨拶への意識は高くなった。また、強化週間が意識向上につながり、設定した目標を実践しようとする気持ちも高くなった。 相手の挨拶に返すことはほとんどの舎生ができる。自発的な挨拶はもう一歩である。	B	○引き続き指導員の積極的な挨拶を励行し、舎生が挨拶のしやすい雰囲気づくり、また定期的な面談での評価と振り返りを継続する。
	○学習における基礎・基本の徹底	○「学習のルール」の発表と姿勢の項目が中間評価以降、生徒の自己評価が下がった。授業に向かう気持ちを育成する必要がある。 ○本年度より道德の授業が始まった。	○学習のルール（授業準備、チャイム着席、挨拶、姿勢、発表）が継続的に守られている。 ○自ら学ぼうとする力やより良く生きていこうとする力が育っている。	○落ち着いた雰囲気作りをするために、余裕を持ったチャイム着席と朝読書を徹底する。 ○わかりやすい授業を展開し、学習に向かう態度を育成するために学習内容や支援を検討をする。 ○道徳科の授業を継続的に実施する。	○生徒アンケートより前後期とも8割以上の生徒が「学習のルール」を守っていると回答、また、どの学年も朝読書の取り組みが良くなった。「勉強がわかる」は8割前後だが、「授業が楽しい」は学年により差がある。 ○基礎的な学力を身につけさせているものの、深まるまでには至っていない。	B	○生徒個々の到達度をもう少し明確にする。個別の指導計画の個人目標の見直しを行う。 ○より良く生きていこうとするために考える力を育成する。研究研修担当と連携し授業研究会を実施する。 ○授業改善のための情報発信を行う。
		○授業改善について教職員の関心は高いが、特に普通教科において、お互いの授業を参観し合ったり、指導・支援について学び合ったりする機会が十分でない。	○授業研究会や教科会等の中で研修したことを授業改善に活かしている。	○教職員にアンケートをとり、ニーズに合った授業研究会を実施する。 ○授業参観シートを活用し、改善案を共有する。	○教科ごとに検討した授業改善のポイントをもとに、1人1授業研を実施した。教科を超えての参観者もあり、それぞれが自身の授業改善に活かすことができた。	B	○生徒一人一人が活動に参加し、より深く考え、達成感を感じることでできる授業になるように、授業改善のための研修を継続していく。
	○ライフスキルの育成	○自己理解が難しく、進路選択の見極めが不十分な生徒がいる。 ○働く意欲や心構えが不十分なままに就職してしまう生徒がいる。	(1年生)自分の課題を理解している。 (2年生)自分の適性を知り、進路を具体的に考えている。 (3年生)自分の適性を踏まえて進路を決定している。	○進路行事や、専門家派遣事業等を計画的に実施するとともに、振り返り等を工夫し生徒の意識を高める。 ○職員研修や通信等で卒業後の生活に関する情報を発信するとともに、必要な指導について意見交換する機会を設ける。	将来について考える機会として、進路担当や卒業生の話を聞くセミナーや進路指導室での相談日を設けた。また、職員研修で情報共有や意見交換する場を設定した。その結果、学年が上がるにつれ、将来の生活を意識して取り組むようになり、3年生は1月現在で約9割の進路が決まった。	B	○今後も職員研修や通信等で、必要な情報を提供したり、意見交換したりする機会を設けていく。 ○進路指導室を効果的に活用するなど、生徒が将来について考えられる環境を整えていく。

